

## 第1節 生涯学習を推進する

### 現状と課題

近年の情報化の進展や自由時間の増大などを背景として、幼児期から高齢期までの生涯を通じて学習を行うことができる社会の実現が求められており、「より豊かに生きること、社会の中で自分を活かすこと」は市民の願いにもなっています。今後は、団塊の世代の退職などにより時間的な余裕を持つ市民の増加が見込まれるため、生涯学習に対するニーズがさらに高まることが予想されます。こうしたことから、より多くの市民が主体的に学習することはもちろん、市民自らが学習者であると同時に学習指導者として、学習成果を地域社会に還元できる仕組みづくりが求められています。

本市においては、「城陽市生涯学習まちづくり計画」に基づき、各種講座の実施などさまざまな生涯学習施策に取り組んできていますが、社会情勢を反映した計画の見直しと総合的な推進体制の整備が求められています

また、多様化、高度化する生涯学習社会に対応するため、生涯学習の基盤を培う学校教育の充実や家庭・地域の教育力の向上はもとより、大学や民間企業との連携などにより新しく、より専門的な学習機会の充実も必要となっています。

さらに、生涯学習活動を支えるため、文化パーク城陽や城陽市総合運動公園をはじめとして、生涯学習施設の整備・充実に図り、より一層の学校教育と社会教育の連携の促進が必要となっています。

### 基本方針

市民が自ら学び、相互に学びあい、自ら行動することにより、自己を高め、生きがいをもって社会に貢献する教養豊かな文化の香りの高いまちをめざします。

市民が生涯にわたり、いつでも自由に学ぶことができる環境と体制を整備し、魅力的で活力あるまちをめざします。

### まちづくり指標

まちづくり指標名	説明	単位	現状値	5年後の	10年後の	めざすべき
				目標	目標	目標
生涯学習に係わる様々な講座へ参加している市民の割合	まちづくり市民アンケート結果	%	19.4 (H18)	24	29	100

まちづくり指標名	説明	単位	現状値	5年後の	10年後の	めざすべき
				目標	目標	目標
生涯学習施設の利用者数	文化パーク城陽、コミュニティセンター、公民館、総合運動公園、市民運動広場、市民プールの延利用者数	人	1,788,906	1,898,000	2,040,000	

## 主な施策の展開

### (1) 生涯学習推進体制の整備・充実

市民の自発的な学習活動を推進するため平成6年5月に策定した「城陽市生涯学習まちづくり計画」を、現在の社会情勢を反映した計画に見直すとともに、「いつでも、どこでも、だれでも、たのしく」学習できるよう、大学や民間企業などとの連携も含めた生涯学習システムの構築や総合的な推進体制の整備・充実を図ります。また、市民の自主的な生涯学習活動を支援するシステムの導入を進めるとともに、学校教育と社会教育の連携の促進を図ります。

### (2) 学習機会の充実と学習支援

文化パーク城陽などの生涯学習施設の機能を有効に活用し、市民の学習ニーズに対応した生涯学習プログラムの内容の充実や専門職員の配置の検討を進めるとともに、積極的な学習情報の提供を推進するなど、市民の学習活動を支援します。

### (3) 生涯学習施設整備・充実

市民が自らの意思により、いつでも自由に学習ができる生涯学習施設の整備・充実を図るとともに、生涯学習に関する研究や学習方法の開発、指導者の育成・研修、各種情報の研究などを進めるため、生涯学習センターの設置を検討します。

## 市民まちづくりワークショップからの提言

### 市民の役割(例示)

学習指導者や地域ボランティアなど、自らの学習成果を積極的に地域へ還元する。  
生涯学習施設において、市民自ら講座を立ち上げるなど、学び合いの機会を設けて、参加する。  
地域住民が所有している郷土に関する資料・情報を提供する。  
生涯学習施設の施設運営や市民が望む生涯学習プログラムの作成などに積極的に参加する。